

4-2

認知症ケア

ご家族との協働

暴言・暴力行為のあるご利用者への対応

ご家族との支えあいによる個別ケアの実践

中野区かみさぎ特別養護老人ホーム

発表者：介護副主任 小野 加代子	共同研究者：担当フロア介護職員
所在地：東京都中野区上鷲宮 3-17-4	
TEL：03-3926-8443	E-mail： info@m-kamisagi.jp
FAX：03-3970-9620	URL： http://www.m-kamisagi.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人武蔵野療園を母体とし、昭和 63 年に開設。入居 100 床、併設ショートステイ 16 床で運営している。通所介護（一般型、地域密着型認知症対応）、居宅介護支援、訪問介護、地域包括支援センター（受託運営）を併設している。
----------------------------	--

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <p>平成 16 年に認知症のご夫婦が入居される。入居後二人部屋で過ごされていた。奥様の行動に対してご主人が怒鳴ることや、手を挙げるがあったが、二人の距離を適度に離すことで安定を図っていた。</p> <p>徐々に奥様に対して暴言や暴力行為が激しくなり、夫婦を別部屋とする。</p> <p>平成 20 年 6 月に奥様が入院されたことをきっかけに、職員や他のご利用者に対する強い暴言や暴力行為が出現し始める。</p> <p>介護職員を中心に対応していたが、強いストレスを感じる職員が増加したことを受け、ご家族を積極的に巻き込んだ支援を展開することとなった。</p>	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <p>◎暴言・暴力行為が目に見えて減少した。</p> <p>◎昼夜問わず御家族に怒鳴るように電話していたが、頻度も減少し、口調等も落ち着いて電話できるようになり、ご家族のストレスが軽減した。</p> <p>◎症状の理解やご本人への対応を通じて、ご家族の行動や内面が変容した。</p> <p>◎スタッフの認知症ケアへの理解が深まり、自信を持ったことで、心に余裕を持って対応できるようになった。</p>
<p>〈具体的な取り組み〉</p> <p>◎ご本人への対応</p> <ul style="list-style-type: none">・傾聴、受容、対応の統一、成功事例の共有、精神科医師との連携など <p>◎ご家族との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・ご本人の症状の理解への支援、ご家族同士のコミュニケーション、面会の頻度や時間の調整、奥様への面会への協力依頼、受診時の同行など	<p>〈今後の課題〉</p> <p>◎妻が永眠された際の対応について、どのように支援していくか不安が強い。</p> <p>◎再度症状が発生した際、ご本人、ご家族、職員への速やかな対応</p> <p>◎ご本人、ご家族、職員などの思いや状況などを総合的に捉え、特養における認知症ケアについて体制などを再考していく必要があるのではないか。</p>
<p>なお、倫理的配慮に関しては、調査の目的とプライバシーの遵守を依頼時に口頭で約束している。</p>	<p>〈参考資料など〉</p> <p>特になし</p>

【メモ欄】